

10月例会報告

【日 時】2000年10月27日(金)19:15～21:30 筑波大学附属高校 3F 会議室→21:40～23:30 カリнка

【参加者】川前真一(東京ベイフットサルクラブ)、杉村宏道(専修大学)、中塚義実(筑波大学附属高校)、野口良治(東京都サッカー協会)、浜村真也、山戸一純(FUTSALNET)

【新規参加者】大塚秀樹(日揮(株)/FC Ressaca)、佐々木裕子(加茂商事(株))、田尻美寧貴((株)クラブハウス)、豊田幸夫(フットボウズ・フットボール)、中田泰祐(スポーツマネジメント(株))

注)参加者は、所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

「サロン 2002・フットサルプロジェクト1」の展望と課題

ーフットサルの現状と連盟の意義 フットサル・プロジェクト1

<全体構成>

I. フットサルを取り巻く状況

1. “施設”の観点から(川前真一)
2. “人”の観点から(杉村宏道)
3. “情報”の観点から(山戸一純、豊田幸夫)

II. フットサル連盟設立検討の経緯

1. 「連盟」とは何か(野口良治)
2. 「東京都フットサル連盟」の組織(案)(中塚義実)

<プレゼンテーション概要>

I. フットサルを取り巻く状況

1. “施設”の観点からー東京ベイフットサルクラブを事例に(川前真一)

スポーツ施設は民間と行政が支えている。日本のスポーツ施設は都市圏に約62%、東京では約15%ある。民間施設である東京ベイフットサルクラブは以下のような状況である。

1) 現状

「利用状況」…平日は18時以降が主体で昼間はほとんどない。土日祝は朝から夜までイベントやレンタルコートなどでにぎわっている

「施設概要」…フットサルコート4面、ナイター照明つき。ロッカー・シャワー・更衣室完備。複合施設と

してテニスコート、洗車場、羽田空港の駐車場（イエローパーキング）を併設している。とにかく広い。

また無料駐車場 50 台駐車可

「サービス内容」…各種大会（ビギナー、スーパービギナー、O-30、ミッドナイトセブンス、サンライズ、MIX）を中心に長期にわたるリーグ戦や、平日夜間に個人で参加する個人参加フットサルを開催している。各種大会への申し込みは、メール 4 割、電話 4 割、窓口 2 割。身の丈にあったサービス、気軽にいつでも誰でもできるサービス提供を心がけている。

「登録」…チーム登録を行っており登録すると割引でコートをレンタルできる他、各種大会などの割引参加があり、料金の差別化を行っている。

2) 課題

- ・お客さんが、競技志向とライフスタイル志向に2極化しつつある。これにどう対応していくか
- ・連盟との共存
- ・各施設との共存
- ・利用者のモラル、マナーの向上

2. “人” の観点から(杉村宏道)

「フットサルをやろう」と言ったときに、友達4人集めればできる。「メンバーを集める」「場所を探す」「連絡する」、この3つによりフットサルができるのだが、順序がばらばらでいい加減。簡単にできるため簡単につぶれているのがフットサルチームの現状。フットサルチームの活動維持には意外とお金と労力がかかる。

「チーム作り」

- ・5人で行うスポーツなのでメンバーは最低5人で良い。
- ・在住、在勤、在学などの条件がない民間のフットサルコートやイベントが充実しているため、単純に活動するのであれば、居住地などにとらわれず、会社の同僚、学校の友人などで構成できる。

「チームマネジメント」

- ・IT革命に伴いメンバー内の連絡はメール（ML）やHPなどで行える。
- ・メンバーが限られているため、電話連絡の場合もキャプテンは少人数に連絡するだけでOK。
- ・練習場確保として民間のフットサルコートであれば電話で予約できる。コートによってはHPでコートの空き情報やイベントの空き情報を公開している。
- ・大会参加に際しては各スポーツショップ、イベント業者のHPなどで告知している。FAX申し込みやメール申し込みに対応しているところがほとんどである。
- ・練習相手を探す場合は、フットサルネットなどHPの掲示板で行える。フットサルコートにも対戦相手募集ボードなども有り相手探しにはあまり苦労しない。

「チームの活動維持」

- ・コートレンタル1時間 10000 円、大会参加費 18000 円。民間の各料金の平均値はこれぐらい。

「公共の体育館の現状」

- ・料金は平均して約 3000～4000 円程度（1面1時間当り）

・各施設とも区内在住、在勤、在学何名以上などの条件があり予約は2～3ヶ月前から窓口抽選と言うところが多い。

・フットサルをすることはできるが、ゴール（ハンドボールと兼用）がない場合や、壁が弱かったり壁にバスケットなどの得点ボードがあるため、シュート禁止やゲーム練習禁止など規制があるところもある。

・上記の規制などがなく料金も安く、いわゆるオアシス！！が穴場として都内に数箇所存在しているが、下記にあげるマナーの問題で少しずつ利用できる体育館が減っている・・・。

・「もともとフットサルは体育館スポーツ！」「予約は取りづらいけど安い！」「雨でも関係ない」など利点も多いため希望者が多く、予約は至難の業。

「プレーヤーのマナー」

民間のコート、公共の体育館問わず各施設では以下のような問題が出ている

- ・テニスなどと共有のクラブハウス内での上半身裸体での横柄な態度。
- ・喫煙場所以外での喫煙。
- ・ゴミの分別ができていない。
- ・体育館で「裏が黒いシューズ禁止！」を無視してサッカーのトレシューでのプレー。
(↑体育館の床に黒い跡がついてしまいます)
- ・体育館履きで屋外に出てそのままフロアでプレーをする。
- ・体育館フロア内で「飲食禁止！」を無視してフロアで飲食をする。

チーム作りが比較的簡単に出来てしまう反面、チーム内での意思疎通（目的共有）や活動に際しお金がかかるということで、学生プレーヤーなどは「大会のみ参加して負けたら解散」など、せっかくできたチームが簡単に崩壊してしまう危険性も秘めている。

3. “情報”の観点から

●情報を発信する側からフットサルネットを事例に(山戸一純)

1) フットサルネットの現状

現在フットサル系のHPで最大のアクセスを誇るフットサルネット(<http://www.futsalnet.com/>)を主宰している。WEB以外のメディアではあまり取り上げられないフットサルニュース全般と、誰でも参加できるオープンランキングシステムの2つを軸にして、以下の3つのサービスを中心に提供している。

「情報サービス」

- ・メールサービス

隔週発行のメールマガジン。リーグ情報、連載、読み物など。購読数約 2000 通

- ・ロコミ情報

各種大会告知や耳寄り情報

- ・各エリア通信

地域通信：北海道、茨城、沼南町、神奈川、長野、滋賀、静岡、愛知、関西、鹿児島

海外通信：イタリア、ブラジル、アメリカ

- ・日本代表情報

代表選考から大会参加情報、解散までを網羅

- ・全日本選手権情報

各地域予選参加情報、結果レポート。

関東、関西大会の観戦レポ、全国大会の観戦レポや関連情報の提供

「コミュニティーサービス」

- ・オープンランキング

チーム登録（無料）してもらったチームが対象（現在約 1300 チーム）。登録チームの情報は各種方法で検索・一覧が可能。これまでの対戦履歴を全で一覧する事も可能。参加チームには月間ランキングや年間ランキングを発表しプレゼント。

- ・マッチメイクボード

コートを押えたチームが対戦相手を見つけるツール。さまざまな条件を提示しておき、条件に合致するチームが申し込む。常時 100 件程度が登録。

- ・大会ボード

大会主催者が主催大会を告知するボード。利用者はこのボードから参加申し込みが可能。現在 10 団体が大会告知している。

- ・掲示板

主にメンバー集め、対戦相手集めに使用されている。

「相談サービス」

- ・フットサルクリニック

初心者やより上を目指すプレーヤーが、トップチームの指導者や選手たちにさまざまな質問が出来る場所。

- ・「チーム実力診断」

公式記録をオープンランキングシステムに入力し、自分のチームがどの位置にいるのかが確認できるもの。

2) 課題と今後の展望

草スポーツとして目覚ましい発展を続けるフットサルであるが、メディアでの露出度が極端に少ないため、ネットの外ではフットサルの情報が非常に少ないのが現状である。一方、積極的に情報を取り入れた人たちは、インターネット環境を整備し、ネットで情報を得るため、他メディアのニーズが薄まる傾向にある。

積極的にフットサル情報にアクセスしないが、なんとなくフットサルに興味がある層への露出が結果的に減ってしまうのではないかと。つまり、今後はネットで流れる情報を、いかにネット外の人々に発信していくかが課題ではないかと。

フットサルネットでは、フットサルに関するあらゆる情報を網羅したい。ランキングシステム登録チームを全国網羅し、自分の住む町にどんなフットサルチームがあるのか知らない状況を改善したい。

また、各地域のフットサル通信（ローカル情報コーナー）を充実させ、他のメディアでは扱えないような草情報を徹底的に収集、発信していきたい。草の根プレーヤーにとって欲しいのは、地元のコート・大会情報や、ショップや他チームの情報である。目標は全国網羅。

●情報を受信・利用する側からフットサルチームのネット利用とチームマネジメント(豊田幸夫)

その1. ネットからのフットサル情報入手

1) ほぼ毎日欠かさずチェックしているフットサルサイト

◇総合フットサルサイト

- ・FUTSAL NET
- ・F-NET~FUTSAL&FUTBALL NETWORK~

主に掲示板より練習相手や大会などを見つけている。Super League などの強豪チームの試合情報などもチェック。

◇フットサルチームのサイト

- ・GALO☆FUTSAL CLUB TOKYO
- ・ZIBRAL α

日記や掲示板などによる巷のフットサル情報が豊富。練習試合などの対戦相手募集等も載っているのでチェック。

2) 某プレイヤーが「フットサルにハマっていった経緯」～ネット利用において～

・上記の「FUTSAL NET」や「GALO☆FUTSAL CLUB TOKYO」のサイトを見つけ、毎日欠かさず見ているうちに「フットサル中毒」に。

↓

・「フットサル中毒」にして頂いたサイトの1つ「GALO」のチーム練習に参加。大いに刺激を受ける。チーム単位でも参加し始める。

↓

・「FUTSAL NET」の掲示板で見た「大会参加チーム募集」で「ZIBRAL α」主催の大会に参加。同じ経緯で「ELBA」主催の大会に参加。

↓

・「FUTSAL NET」のニュースで知った「全日本フットサル選手権千葉県大会」の要綱により千葉県大会に出場。先日一次予選を突破。

*インターネットなくしては今のチームの状況は有り得なかったと日々感じている。

3) その他のネット利用

メールで「今後のスケジュール」「試合の反省点」などをメンバー達に配信。将来的には多くのチームがしているように「チームサイト」をもち管理できたらと思う。

その2. チームマネジメントについて

チームを運営して幾重での課題として以下の点が挙げられる。

財政面…メンバーの半数が資金力の無いフリーター・学生であるため大会参加費（チームで約2万円）、コート利用料（2時間で2万円）、ユニフォーム代（公式戦だとホーム・アウェー共に上下、ソックス、を

揃えなければならない)などがチーム財政を圧迫。

活動場所…皆ばらばらの区市町村に住んでいるため、公共の活動場所の確保が困難。

活動時間…多忙なビジネスマンには平日の夜の練習参加は不可能。

周囲の理解…メンバーの彼女、奥さん、子供たちの理解を得る必要性がある(特に土日祝の活動において)。フットサル施設が同伴者、観戦者にとってより居心地のよいところになってくれれば・・・。

*フットサルにおいてチーム、そして個人が負担している「お金」。四苦八苦している「場所確保」。そして「時間」。多くのカテゴリーで「連盟」が後押しできる部分は大きいはず。「オフィシャル」な働きかけとして、その力は莫大だと思います。

II. フットサル連盟設立検討の経緯

1. 「連盟」とは何かー設立検討開始までの経緯(野口良治)

(財)日本サッカー協会基本規定によると、協会は「サッカー競技の普及および発展を図るため、各種の連盟を置くことができる」として、「日本フットボールリーグ(JFL)」や「全日本大学サッカー連盟(学連)」「全国高等学校体育連盟(高体連)サッカー部」などが例として挙げられている。

平成6(1994)年にFIFAが、それまで世界各地で独自のルールで行っていたミニサッカーのルールを統一して[FUTSAL]としたのを受けて、日本でも平成7(1995)年3月、(財)日本サッカー協会のフットサル担当者専任要請にともない、同年4月、関東各都県にフットサル担当者を置いた。東京都では同年10月に、各種別委員会より選出された13名によりフットサル委員会を設置し、組織化に着手した。当初は、全日本フットサル選手権大会東京都大会をはじめとする各全国大会予選を実施することがフットサル委員会の主たる業務であったが、平成8(1996)年4月のフットサル大会登録制度導入以降、サッカー協会内におけるフットサル関連事業は非常に早い速度で拡大している。平成10(1998)年7月に東京都フットサルリーグがはじまり、平成11(1999)年よりフットサル施設連絡協議会を組織、民間フットサル施設との対話の場を設け、各施設及びフットサル愛好者としてのチームや選手の状況を吸収できるように努めている。

サッカー協会がフットサルを導入するのと時を同じくして、都内に数箇所の民間フットサル施設が建設された。施設は年々増加し、現在では十数ヶ所に及び、多くのフットサル愛好者の活動の場となっている。しかし多くの民間施設では、様々な理由により正式な競技規則は運用されておらず、大まかな内容は異なっていないものの各々のローカルルールで競技会が開催され、いわば各施設が“フットサル連盟”の観がある。サッカー協会が推進する「フットサル」に関するより一層の情報提供及び指導を進めることにより、民間フットサル施設との関係を明確にしていくことが今後の重要課題の一つであると思われる。

フットサル委員会では、東京都フットサルリーグに代表される実質的な事業執行機関、および区市町村フットサル連盟(リーグ)・民間フットサル施設を活動の底辺とし、各種別(1種、2種、3種、4種、女子、シニア)を組織化することにより、担当者レベルから一歩踏み込んだ能動的かつ積極的に事業展開することのできる機能的組織が必要であると考え、「東京都フットサル連盟」を発起するとの結論に達した。

日本フットサル連盟でも、平成12年に改組再編を行い、47都道府県にフットサル連盟を組織し全国展開を図ることが盛り込まれている。東京都フットサル連盟の早期実現が求められている。

2. 「東京都フットサル連盟」の組織(案)(中塚義実)

東京都フットサル委員として、委員会発足当初から関わっている。また、連盟設立準備にあたっては、委員会内の小委員会メンバーとして、主に登録制度について検討している。ここでは、新しい組織の登録制度を検討する際の基本的考え方(フットサル委員会内で提案しているもの)を紹介したい。現行のサッカーの登録制度では、チーム単位、年度単位で登録することとなっている。二重登録は認められていない。大会運営上、チーム数の把握には適しているが、メンバーが多い為試合に出場できないケースなど、自由なチーム編成ができにくい弊害がある。一方、現行のフットサル大会登録制度は、チーム単位、大会ごとの登録である。これだと自由なチーム編成で大会に参加できる。しかし継続性は保証されない。そもそも「チーム」という単位は、ゲームを行う単位のこと、これは大会ごとでかまわない。その意味では、フットサルで取り入れている制度は優れている。大会へのエントリーは、大会ごとに、個人名とセットでチーム単位で申し込んでもらえばよい。

しかし、連盟への加盟は、大会申し込みとは異なり、連盟が何を育てようとするのかに関わってくるのではない。協会や連盟が把握し、育てるべきは「チーム」ではなく「クラブ」であり、自立した「個人」ではない。しかし、「個人」を連盟が全て把握するのは事務的に難しいかもしれない。そこで連盟が把握する(ユーザー側から言うと「登録する」)単位は「クラブ」とし、「個人」は各クラブを通して把握する仕組みを提案している。フットサルの場合、ここでいう「クラブ」は「民間施設」であったり、「フットサルチームから発展したクラブ」であったりするだろう。

しかし、東京協会の中核の方々には「チーム」と「クラブ」の違いを理解してもらえないまま、この案は保留となっている。案の修正か、または説得力を持たせることが必要である。

<中塚の感想・意見>

フットサル・プロジェクトの参加者は多様である。フットサルの民間施設で働いている人、施設を利用してイベントを提供している学生、インターネットで情報を発信している人、その情報を活用してフットサルを楽しんでいる人、協会の立場で関わっている人…「フットサル」という一つのムーブメントの切り口の多様さを表わすとともに、サロンの中にそれらの人材がいるということに、改めてこの組織の潜在的なパワーを感じている。

杉村氏の指摘した、チームのマネジメントサイクルの話は、もっと掘り下げたかったところである。簡単に人が集められるからこそ、多くの人プレーしているのだが、運営も安易になっている。もしかするとその安易さが「今どきの若いモン」に受けているのかもしれないが、それは同時に継続性の欠如につながる。

筑波大学附属高校サッカー部のいくつかの「改革」の中で、競技志向のサッカー部門と、お楽しみ志向のフットサル部門に分けたことを以前紹介した。この中でフットサル部門は、昼休みにフットサル(実はミニサッカーでしかないが)を楽しんでいる連中が対象となるのだが、基本的に彼らは組織の一員でいたくない連中である。だから、フットサル部門としての組織的・継続的な活動は行われていない。しかし、年2回の校内フットサル大会(サッカー一部主催)には男子が20チーム、女子も10チームは出場する。潜在的愛好層は非常に多いが、組織的・継続的な活動となると二の足を踏んでしまう。今のフット

サル愛好者にはこういった層が非常に多いのではないかと感じている。このような状況の中で連盟をつくってフットサル愛好者を組織化することに果してどのような意義があるのか。このあたりが本プロジェクトの中心的課題となるだろうと感じている。

「そもそも連盟は必要か」

「連盟が提供できるサービスとユーザーが求めるものはどこで一致するか」

「どういった組織、活動が連盟には求められ、どうすればそれができるか」

次回のフットサルプロジェクト(11月15日)では、このあたりについて議論します。プロジェクトメンバーでなくても、意見はどしどしお寄せ下さい。

なお、中塚は11月10日～14日まで修学旅行で沖縄へ行っています(台風大丈夫かなあ)。その間、メールのチェックはできません(しません)ので、急用の場合は携帯(090-1423-9289)までお願いします。

以上